

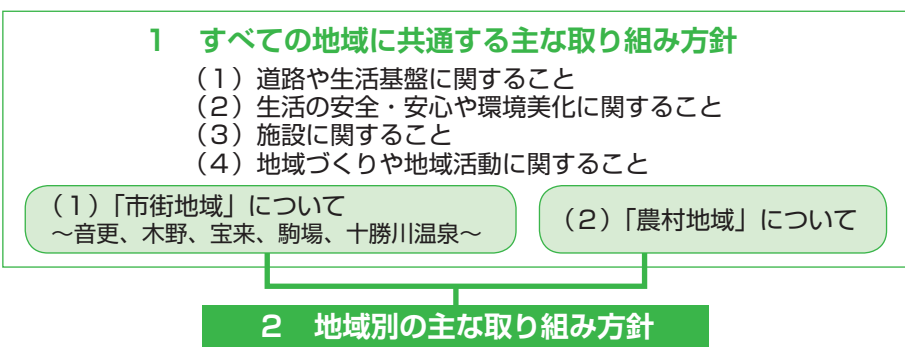


Ⅲ 地域別まちづくり方針

地域別まちづくり方針

「地域別まちづくり方針」は、町内の地域の特性や課題をふまえながら、基本計画のなかの暮らしに関する施策を、地域ごとに示すものです。

「1 すべての地域に共通する主な取り組み方針」は、町内すべての地域に共通する施策の主な内容を示しています。また、「2 地域別の主な取り組み方針」は、町内を大きく市街地域（音更、木野、宝来、駒場、十勝川温泉）と農村地域に区分し、それぞれの地域が抱える課題と、これに対する施策の内容を示しています。



1 すべての地域に共通する主な取り組み方針

町内すべての地域に共通する主なものを記載しています。

(1) 道路や生活基盤に関すること

《道路網》

- 道路、橋梁の適切な維持管理および冬期間における除排雪や路面管理を徹底し、安全確保に努めます。
- 誰もが安全で快適に利用できる、ユニバーサルデザイン^{*}に配慮した道路整備に努めます。
- 町民との協働による道路の安全確保に向け、道路パトロールの強化や情報の協力を得るなど道路管理体制のあり方について、地域と連携して検討します。

《生活基盤》

- 水道施設、下水道施設の更新や耐震化を計画的に進め、施設の長寿命化をはかります。
- 水道未普及地域の解消に努めるほか、下水道区域内および個別排水処理区域内の水洗化の普及に努めます。

^{*}ユニバーサルデザイン：障がいの有無や年齢などにかかわらず、すべての人が快適に利用できるように設計、製造することです。

(2) 生活の安全・安心や環境美化に関すること

《安全・安心》

- 年齢や障がいにかかわらず生活しやすいまちにするため、ユニバーサルデザインの普及をはかります。
- 消防団の人材確保や装備品の充実強化をはかります。また、町民の防火意識や火災予防に関する知識を高めるため、火災予防活動のほか、防火組織への支援や啓発活動を進めます。
- 災害に対する備えや防災意識を高めるとともに、地域の自主防災組織などの育成に努めます。また、災害時における緊急連絡情報の伝達手段のあり方の検討のほか、避難行動要支援者の把握および情報提供を行います。さらに、災害物資、防災救助品の充実や保管場所の整備をはかります。
- 民間木造住宅の耐震化を進めるため、耐震診断や耐震改修費に対する助成や、無料簡易耐震

診断を実施します。

- 交通事故発生を未然に防ぐため、信号機などの設置を関係機関に要請するとともに、危険箇所を中心に注意看板などを設置します。また、歩行者の安全確保をはかるため、歩道の設置、段差の解消、街路灯や防犯灯、通学路の整備などを進めます。
- 地域ぐるみの防犯活動を促進するため、家庭、地域、関係機関・団体との連携を深めます。また、夜間の犯罪を防ぐため、街路灯や防犯灯の整備を進めます。
- 高齢者や障がい者などに配慮した住宅の整備を推進するため、既存住宅の改修に対し助成します。
- 町民と町との協働で地域福祉を進めるため、地域ネットワークシステムづくりを進めます。

《環境美化》

- 森林を憩いの場、緑の大切さの啓発の場として活用します。
- 環境保全に対する意識を高めるため、啓発活動を進めるとともに、自然環境の保全や再生に努めます。また、河川がある地域では、河川空間の整備と河岸段丘の保全に努めます。
- 地球温暖化対策の取り組みや、太陽光、バイオマス^{*}などの新エネルギーの利用を進めます。
- 景観の重要性について認識を高める機会を提供するとともに、景観づくりを行う組織の育成や活動を支援します。
- ごみ収集を適切に行うため、収集方法や体制の改善に努めるとともに、ごみの分別・排出方法の周知や啓発活動を進めます。

※**バイオマス**:生物に由来する再生可能な有機性資源（化石資源を除きます）で、木材、海草、生ごみ、紙、動物の死骸・糞尿、プランクトンなどを指します。

(3) 施設に関すること

- 公共施設などから排出される温室効果ガスの削減に努めます。
- 消防団活動の拠点となる消防会館を計画的に整備します。
- 子どもから高齢者までが広く利用できるようにワークショップ^{**}などの手法を用いて、利用者の意見を反映した公園整備を行います。また、既存公園施設の延命化と再整備を計画的に進めます。
- 学校教育施設を老朽化や児童生徒数の動向などに応じて、計画的に改修、整備します。
- スポーツ施設の整備については、「スポーツ施設整備計画」に沿って、計画的に進めます。
- コミュニティ施設の維持管理や計画的な整備、改修を進めます。

※**ワークショップ**:地域に係るさまざまな人が集まり、誰か一人に頼るのではなく、みんなが意見を出し合い、出された意見をまとめて、ものづくりを決める会合です。

(4) 地域づくりや地域活動に関すること

《地域づくり》

- 保護者や地域に開かれた学校運営をめざし、「学校評議員制度^{*}」を継続して実施し、情報を積極的に発信します。
- 地域ぐるみでの青少年の健全育成をめざし、家庭、学校、地域との連携を深め、地域の青少年育成組織の充実をはかります。
- まちづくり懇談会など、町民と町との対話の場づくりを広めます。
- 町内会規模の適正化、町内会相互の情報共有を促進します。

《地域活動》

- 家庭で取り組めるエコ活動や団体、グループなどによる環境美化活動を支援します。



- 町民との協働による花壇づくりや緑化、公園の維持管理を進める活動などを支援します。
- 町指定文化財などの保護保存に努めるとともに、その積極的な活用をはかります。
- コミュニティ活動を支える人材を増やすため、学習機会や相互の交流機会などの充実をはかります。
- 地域が自主的に行う環境整備活動や地域福祉活動などを支援します。

※**学校評議員制度**：保護者や地域住民の代表が学校評議員となり、学校の教育運営について意見を述べる制度です。

2 地域別の主な取り組み方針

(1) 「市街地域」について ～音更、木野、宝来、駒場、十勝川温泉～

現状と課題

[各市街地域共通の課題]

《道路網》

- ◆ 高速道路ネットワークとのアクセス強化をはかるため、スマートインターチェンジ^{*}の設置や、これと既存の主要幹線道路を結ぶ機能的なアクセス路の整備が求められています。
- ◆ 交通需要に応じた道路整備のほか、特に住宅地内道路の再整備が求められています。
- ◆ 積雪状況に応じた除排雪が求められています。

※**スマートインターチェンジ**：高速道路の本線やサービスエリアなどから乗り降りができるように設置される、ETC（高速道路で料金所をノンストップで通過することができるシステム）を搭載した車両に限定しているインターチェンジです。

《生活基盤》

- ◆ 公営住宅の老朽化が進んでいるため、計画的な建て替えや改修などを進めることが必要です。また、高齢者や障がい者などに配慮した住環境づくりが求められています。
- ◆ 住宅系の新規市街化区域の編入が今後は難しい状況にあるため、既存市街地内の未利用地の積極的な活用を進めることが必要です。
- ◆ 土地の有効活用や土地取引の円滑化をはかるため、地籍調査の推進が必要です。
- ◆ 市街化区域内の汚水整備はほぼ終了していますが、雨水管の整備率が約56%であるため、今後も整備が必要です。

《安全・安心》

- ◆ 郊外型の大型スーパーなどの商業施設やコンビニエンスストアの出店により、通行量の多い道路の沿線では利便性が向上していますが、住宅地などでは、小規模小売店舗が減少しています。
- ◆ コミュニティバスは、乗車時間の短縮や増便などの要望があり、今後の運行について検討が必要です。
- ◆ 人口が増加している地域では、新たな交番などの設置が求められています。

《地域づくり、地域活動》

- ◆ 町内会に加入していない世帯や高齢者世帯が増加しており、地域コミュニティや活動の停滞が懸念されています。

地域別まちづくり方針



[各地域の課題]

音更地域

音更地域は、役場庁舎のほか、保健センター、地域包括支援センター、総合体育館や希望が丘運動公園のスポーツ施設などの公共施設が整備されています。また、高等教育機関として帯広大谷短期大学があります。地域内には河岸段丘地形があり、防風林や音更川など周囲の自然環境にも恵まれています。

前期においては、音更中学校の改築が完了しました。また、平成28年度には音更保育園と音更西保育園が統合し、新たに認定こども園となります。老朽化した老人福祉施設については、平成27年度および28年度の2か年計画で建替が行われます。

地域の人口は、平成24年2月までは宅地造成に伴い増加傾向にありましたが、それ以降は減少しています。14歳以下の子どもは、最近では横ばいの状況にありますが、保育ニーズの多様化に対応した取り組みを進めていくことが必要です。

道路網については、音更中央通の早期完成のほか、IC工業団地の企業立地に伴う大型車両の通行増にあわせた周辺道路の整備が必要です。

市街地については、これまで音更中央通の道路拡張にあわせて町並みの整備などを進めてきましたが、町民の生活環境やニーズの変化により、長年続けてきた小売店舗が閉店する現状にあります。一方、空き店舗の活用などにより新たな開店の動きも見られることから、これらによる市街地の活性化が期待されています。

木野地域

木野地域には、国道241号沿いにショッピングセンターや飲食店などが多数立地しており、買い物や飲食などの場として町外からも多くの人を訪れる利便性の高い地区を形成しています。また、宅地造成により住宅地が広がってきた地域でもあります。東に音更川、南に十勝川の河川緑地が広がり、鈴蘭公園のほか中心部には河岸段丘地形があるなど川や緑に恵まれています。

前期においては、木野東の家および柳町学童保育所の整備を行いました。また、地域コミュニティの拠点として、新たに木野東会館の整備を、さらに、老朽化が進んでいた木野消防会館の改築を行いました。国道241号の交通混雑の解消については、道路管理者である帯広開発建設部をはじめ町、関係機関、地元関係者による懇談会により協議を進め、車線の明確化などの取組や課題の整理などを行いました。これにより帯広開発建設部において、交通事故対策事業および無電柱化事業に着手することとなり、事業の整備促進が求められています。

旧国立十勝療養所跡地は、平成25年度に住宅地として開発され、新たに「すすらの丘行政区」が設置されました。近くには老人保健施設等もあり、お年寄りから子どもまで、地域コミュニティを支援する環境づくりとして、青葉公園の充実が求められています。

地域の人口は、この5年間では、ほぼ横ばいとなっています。また、地区ごとの年齢別人口で見ると、14歳以下の子どもの割合が大幅に増えている地区、高齢化が進んでいる地区など、さまざまな人口構造が見られます。このため、子どもの増加とともに義務教育や学童保育などの施設の充実を求める地域がある一方、児童数の減少が続いている地域もあり、それぞれに対応した取り組みが必要です。また、町内会の加入率の減少により、地域コミュニティや活動に影響がでてきている地区もあり、その対応策が必要です。

そのほか、国道241号沿いに数多く立地している大型店舗による大型広告物の色彩などが沿道の景観に影響を与えていることや、駐車場など車の利便性を優先した土地利用がされているため、事業者などと連携して自然の潤いや優れた景観づくりに取り組んでいくことが必要です。



宝来地域

宝来地域は、土地区画整理事業などで宅地開発が進められた地域で、音更川と十勝川の河川や河岸段丘地形に囲まれ、自然環境に恵まれた閑静な住宅地です。音更川に架かる十勝新橋が木野市街との唯一の道路網でしたが、宝来大橋に続き翠柳大橋も開通したことから、交通アクセスの利便性が高まりました。

前期においては、子育てを支援する環境づくりとして宝来中央公園に親水施設を整備しました。地域の人口は、この5年間で約360人増加しています。年齢別人口では35歳から40歳代の階層を中心に多くなっており、14歳以下の子どもの割合も他の地域と比較して大きいことから、子育て世代の世帯が多い地域といえます。

道路網については、翠柳大橋の開通に伴い、宝来東4号の早期完成が求められています。

施設整備については、老朽化に伴う保育園の改築が必要です。また、官公署や利便施設などの誘致が求められており、関係機関への要請とともに、町有地の活用も含めた検討が必要です。

駒場地域

駒場地域は、家畜改良センター十勝牧場が隣接する農村地帯にある市街地です。また、音更高等学校も近くにあります。

前期においては、子育てを支援する環境づくりとして西駒公園を整備しました。

地域の人口は、この5年間は減少傾向にあります。また、身近なところで買い物をすることが難しくなっていることから、宅配や移動販売の情報を提供するなど、対策が必要です。

施設整備については、地域の下水処理を農業集落排水施設により行っていますが、より安定した処理をするため、公共下水道への接続整備を実施しており、早期完成が求められています。

十勝川温泉地域

十勝川温泉地域は、北海道遺産であるモール温泉をはじめ、道立十勝エコロジーパークなどの公園や十勝平野が広がる眺望、日高山脈を望む景観など、十勝観光を代表する観光資源に恵まれています。

多くの観光客が訪れるこの地域では、特にもてなしの心を大切に、観光客の滞在や交通に配慮したまちづくりが進められています。また、観光関連産業として、本町の雇用や経済を支えるひとつの柱となっていますが、国内外の経済動向の影響も受けやすいため、経営の安定化が課題となっています。

前期においては、市街地の中央に位置する旧ホテルを整理し、跡地への新たな集客拠点施設の整備や道路等の周辺環境整備を柱とする、官民共同による中心市街地再生事業がスタートしました。地域の核として、新たな交流人口の拡大が期待されています。

地域の人口は、この5年間は減少傾向にあります。平成18年に市街化区域として都市計画決定がされており、観光地としての整備を進める一方で、町民の利便性や生活基盤を維持、向上させていくことが必要です。

道路網については、道東自動車道の音更帯広インターチェンジ～池田インターチェンジ間へのスマートインターチェンジ^{*}設置が求められています。

※スマートインターチェンジ：高速道路の本線やサービスエリアなどから乗り降りができるように設置される、ETC（高速道路で料金所をノンストップで通過することができるシステム）を搭載した車両に限定しているインターチェンジです。

地域別まちづくり方針



市街地域の主な取り組み方針

《道路網》

- 国道241号（音更大通）の交通事故対策事業の早期完成および無電柱化事業の促進、事業区間の延伸を関係機関に要請します。
- 高速道路ネットワークとのアクセス強化をはかるため、スマートインターチェンジやこれと主要幹線を結ぶアクセス路の設置を関係機関に要請します。
- 帯広圏域環状線の早期接続をめざし、関係機関に要請します。
- 道路状況に応じて、住宅地内道路の再整備などを進めます。
- 積雪状況に応じ、的確な除排雪に努めます。

《生活基盤》

- 「住宅マスタープラン」「公営住宅等長寿命化計画」に基づいた、公営住宅の適正な整備と維持管理に努めます。
- 既存市街地内の未利用地について、住宅地としての利用を促進します。
- 町による町内土地住宅情報のネットワークの活用を進めます。
- 市街地の有効な土地利用を進めるため、地籍調査事業の推進に努めます。
- 下水道計画区域内の汚水および雨水管整備を進めます。
- 下水道事業の運営の合理化を推進するため、施設の統合を進めます。

《安全・安心》

- 商業者の振興につながる企画やイベントを支援するとともに、空き店舗対策などを進めます。
- コミュニティバスの利便性の向上に努めます。
- 交番などの適正配置と体制の充実を関係機関に要請します。
- 木野支所の利便性をさらに高めるため、機能の充実に努めます。

《環境美化》

- 沿道景観づくりのため、景観に配慮した大型広告物への指導、助言に努めます。
- 「地区計画制度[※]」を活用して、市街地の景観づくりを進めます。

※地区計画制度：いくつかの街区などからなる比較的小規模な地区を単位に、特性に応じたきめの細かいまちづくりを行うための「地区計画」を立てて、それに沿ってより良好な開発を進める制度のことです。

《施設》

- 老朽化や入所児童数に応じて、保育園の計画的な施設整備を進めます。また、学童保育所の運営委託と計画的な施設整備を進めます。
- 観光客の滞在や交流をはかるため、異日常、非日常を感じ、歩きたくなるような十勝川温泉市街の緑化や基盤整備、中心市街地の再生を進めます。

《地域づくり、地域活動》

- 町内会への加入を促進するとともに、町内会規模の適正化、町内会相互の情報共有を促進します。また、町内会の未加入者にも広報紙が配布できる方法について検討します。



(2) 「農村地域」について

現状と課題

農村地域は、本町の基幹産業の農業を支える地域です。また、食料生産の場としてだけでなく、洪水や土砂崩れなどの自然災害からまちを守るとともに、環境の保全や美しい農村景観の創出、自然の大切さや農業を学ぶ場を提供するなど、市街地域にはない重要な役割を担っており、これらの機能を維持していくことが必要です。

前期においては、西中消防会館の改築を行うとともに、子育てを支援する環境づくりとして東土幌へき地保育所の改築および西中へき地保育所の改修を行いました。

地域の人口は、この5年間は減少傾向にあり、地域活動への影響が懸念されます。また、高齢化に伴い、市街地への交通手段をバスなどの公共交通に頼る町民が増えており、公共交通の充実が求められています。

道路網は、農作業機械の大型化に伴い、車両交差に支障がある路線や畑への進入ができない箇所への対処のほか、改良舗装や維持補修による道路整備が求められています。また、翠柳大橋の開通に伴い、道道帯広浦幌線の整備計画路線の早期完成が求められています。

施設整備については、地域会館などの老朽化が進んでいることから、計画的な改築、改修が必要です。

また、水道、汚水排水の整備が遅れている状況があり、対応が求められています。

農村地域の主な取り組み方針

《道路網》

- 交通二一ズに応じた整備手法を検討し、道路整備を進めます。

《生活基盤》

- 営農用水および簡易水道事業により、安全で良質な水の確保に努めます。
- 個別排水処理施設（合併処理浄化槽）の整備を進めます。

《安全・安心》

- スクールバスの混乗利用や他の方策も検討し、交通の利便性の向上に努めます。

《環境美化》

- 農村の景観を向上させるため、景観緑肥[※]や耕地防風林の保全、沿道景観づくりに努めます。
- 土壌の飛散を防ぎ農作物を風害から守るため、防風林の機能の維持、向上に努めます。

《施設》

- へき地保育所の計画的な施設整備のほか、適切な運営方法を検討します。

《地域づくり、地域活動》

- 地域の担い手である農業後継者の育成、確保に努めます。
- 音更の特性や強みを活かした、音更ならではのグリーンツーリズム[※]を進めます。

※**景観緑肥**：収穫しないでそのまま田畑にすきこみ、後から栽培する作物の肥料にする緑肥のうち、景観にも良いものを「景観緑肥」といいます。

※**グリーンツーリズム**：農山村など自然豊かな地域に滞在し、地域の人たちとの交流や農林業体験を通して、その地域の自然や文化に触れる余暇の過ごし方をいいます。